

校名：高知大学教育学部附属中学校

所在地：〒780-0915 高知市小津町 10 番 91 号

電話番号：088-822-6537

記載日：平成 28 年 5 月 10 日

記載者：黒澤 誠

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

のびのびとして自由闊達、かつ仲間を大切にし、伝統を守る。生徒はいきいきと授業に取り組み、互いを尊重し合い、粘り強く最後までやり遂げることができる。また、生徒会活動等を中心に自主的・意欲的に活動し、自治的能力を発揮する。

貴校の卒業生の活躍状況について：

特に追跡調査は行っていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

高知県教育委員会事務局補佐 1、中学校校長 2、中学校教頭 2（平成 28 年度現在）

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○学び合う授業づくり

【学習のしおりの作成】

教科を越えて共通して取り組むことを昨年度確認して取り組むことができた。その取り組みを継続するために共通して取り組むことをまとめた。また教科ごとの学び方や家庭学習の仕方をまとめ、教師も生徒も同じ方向性をもって取り組めるように学習のしおりを作成した。

【グループ学習の役割と机の配置】

グループ学習が必要なとき役割が必要である時、机の配置と位置番号を学校全体で統一している。そして、役割分担の基本は「司会」「記録」「サポート」「発表者」とするが、授業内容によっては変更しても良い。図と役割を説明する時に、図を見せながら視覚的にもわかるように掲示する。

【授業中の声の大きさ】

TPO を考えた声の大きさの習慣づけを教室に掲示して視覚的に意識づける。

【聞き方のルール】

視覚的に効き方のルールを教室に掲示し、聞き方を意識して発表しやすい雰囲気を作っていく。

【発表の仕方】

- ・発言する時は手を挙げて、当てられたら起立して答える。
- ・周りの生徒の方を見て、話す。

【グループ活動の類型化】

活動の目的や交流する内容により、類型化した5つの掲示物を使い、教師も生徒もグループ活動の目的を意識した上で授業に取り組むことによって、学習の質を高める。

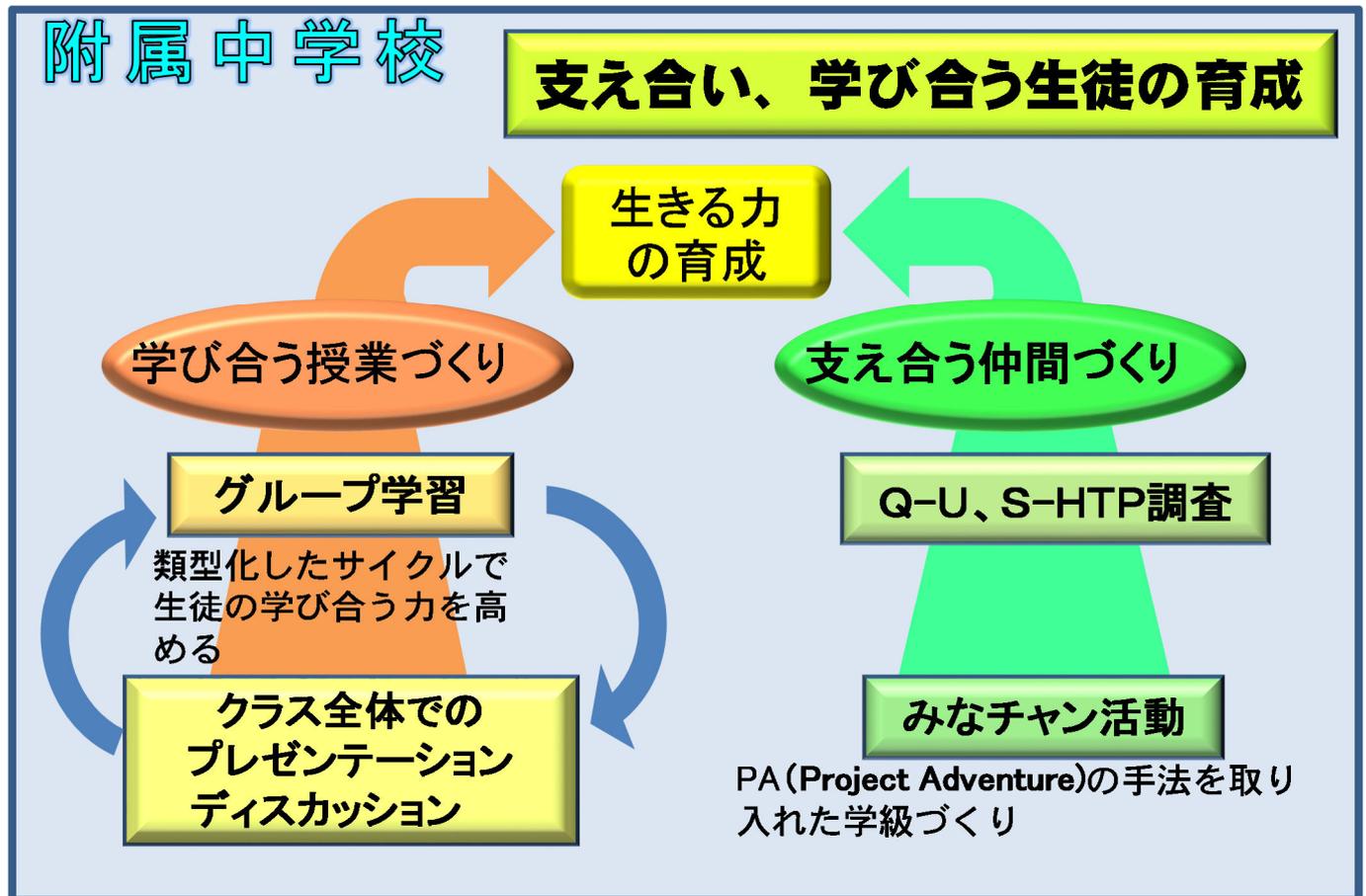
【見通しをもった授業】

授業の始めに、今日のめあて（内容）を生徒にわからせるために、板書をして授業の見通しを生徒に持たせる。また、授業の中で随時めあてに戻り確認しながら進める。

○支え合う仲間作り

学期始めには、仲間づくりとしてみなチャン活動（PAの手法を取り入れた活動）や構成的グループエンカウンター、グループワークトレーニングを多く行った。そして、仲間とのかかわり合いの中で自己を客観視し、自分の行動や考えなどを確認する方法として、4月の学級開きや体育祭前・文化祭前にPAの手法を用いた「ビーイング」も継続して実施した。ビーイングとは具体的には、手形に個人の目標を書き、毎日個人の振り返りをもとに、生活班で振り返り、良い行動をお互いに評価し合い、その内容を手形の周りに掲示していく。また、ありがとうを多くみつける「センキューウィーク」、誰かのエンジェルとして活動する「エンジェルウィーク」、年度末には学級の仲間一人一人にメッセージを書く「別れの花束」を行った。また、平成23年度からクラスみんな

頑張ったこと、例えば授業評価オール5達成、全員暗唱合格などを季節に合わせた風物に書き、教室の後ろに掲示していく壁面装飾を「〇〇プロジェクト」と題し、全学級で行った。みんなで頑張ったことが視覚的に残ることで、自分の学級に誇りを持ったり、さらに頑張ろうとする姿が見られた。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- ・ 教員養成における実習、研修の場（県立大学授業参観）
- ・ 県教育委員会と連携した現職教員の研究、研修の場（年次研修、臨時教員研修、研究発表会）
- ・ 義務教育の完成を行い、人間性と優れた学力を備えた人材を育てる場
- ・ 留学生の受入れ（モンゴルからの留学生受入れ）

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

大学の教員養成学部の附属学校として、教員養成に関して現場に根ざした体系的な教育、実習を行う場として重要である。また、年次研修等の現職教員の研修の場として、先進的な教育を行っているフィールドを提供している。